

貯蓄の状況

1 概要

(1) 全世帯の貯蓄現在高は1692万円

平成16年平均の全世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1692万円で、前年に比べ0.1%の増加となった。年間収入は650万円で前年に比べ1.5%減少したことから、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、前年に比べ4.2ポイント上昇し260.3%となった。

このうち勤労者世帯についてみると、1世帯当たり貯蓄現在高は1273万円で、前年に比べ1.5%の減少となった。また、年間収入は730万円で前年に比べ1.2%増加したことから、貯蓄年収比は、前年に比べ4.8ポイント低下し174.4%となった（表1）。

表1 貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (%)	(参考) 生命保険などを除く貯蓄現在高 (万円)	対前年増減率 (%)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)			
全世帯							
平成14年	1688	683	-	-	247.1	1241	-
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1249	0.6
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1252	0.2
勤労者世帯							
平成14年	1280	748	-	-	171.1	893	-
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2	909	1.8
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4	895	-1.5

(2) 約3分の2の世帯が平均貯蓄現在高を下回る

全世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1692万円）を下回る世帯が約3分の2（67.6%）を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。なお、最も世帯数の多い階級は200万円未満の階級で、全世帯に占める割合は13.8%となっており、前年（13.3%）に比べ0.5ポイント拡大した。

また、世帯全体を二分する中位数は1024万円（前年1027万円）となった。

このうち勤労者世帯についてみると、平均値（1273万円）を下回る世帯が67.9%を占め、全世帯と同様の分布となっている。なお、最も世帯数の多い200万円未満の階級の勤労者世帯に占める割合は16.2%で、前年（16.5%）に比べ0.3ポイント縮小した（図1）。

图1 貯蓄現在高階級別世帯分布

